

# 令和2年度 教育課程説明会 「家庭科」部会（小学校）

## 1 学習指導要領 家庭科の改訂のポイント

平成20年改訂の学習指導要領における家庭科の課題

- 家族の一員として協力することへの関心が低いこと
- 家族と地域の人々と関わること
- 家庭での実践や社会に参画すること

今後育成が求められる力



- 社会の急激な変化に主体的に対応すること
- 生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、それを解決する力
- よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度

家庭科改訂のポイント

- 児童・生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては「生活の営みに係る見方・考え方」を踏まえて、内容を「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」に整理
- 空間軸【家庭、地域、社会】と時間軸【これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活】という二つの視点から学校段階に応じた学習対象を明確化
- 資質・能力を育成する学習過程を踏まえ、各項目を原則として「知識・技能」の習得と、「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する二つの指導事項ア、イで構成
- 生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理

## 2 学習評価について（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料）を参考に）

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

学習指導要領の内容に基づき、「児童・生徒が学習中にどのような姿を見せたら目標が実現したといえるか」を想定し、児童・生徒の実態・学習活動・扱う教材を検討した上で、評価規準を作成する (★P. 28～31 参照)			
	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
観点ごとのポイント	指導事項アにおいて、その文末を「～を（～について） <u>理解している</u> 」「～を（～について） <u>理解していると</u> ともに、 <u>適切にできる</u> 」として、評価規準を作成。  ※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。	学習過程に沿って「課題を解決する力」が身につけているかを評価する。具体的には、指導事項イに基づき、その文末を「～について、 <u>問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている</u> 」として評価規準を作成。	指導事項ア・イと、教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成。具体的には、①粘り強さ、②自らの学習の調整、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、文末を「～について、 <u>課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている</u> 」として、評価規準を作成。
評価方法	・学習カード ・ペーパーテスト ・行動観察  等	・計画表 ・実践記録表 ・行動観察 ・実践レポート ・自己評価・相互評価 ・学習カード  等	・計画表 ・実践記録表 ・行動観察 ・実践レポート ・ポートフォリオ ・自己評価・相互評価  等

【参考】内容のまとめりごとの評価規準（例）

※ 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』巻末資料 P. 79～83

(1) 「自分の成長と家族・家庭生活」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の成長を自覚し、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付いている。		家族の一員として、生活をよりよくしようと、2 学年間の学習に見通しをもち、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

  

(2) 「家庭生活と仕事」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解している。	家庭の仕事について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭生活と仕事について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

(2) 題材ごとの評価規準 (P. 36～38)

家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成しています。題材の検討にあたっては、児童の発達段階に応じて効果的な学習が展開できるよう、各内容項目や指導事項の相互の関連を図ることが大切です。題材の評価規準を設定する際には、内容のまとめりごとの評価規準から題材において指導する項目及び指導事項に関する項目を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成します。

(3) 題材の評価規準を学習活動に即して具体化 (P. 38～41)

授業の目標と関連付けて、学習活動に即して具体化します。指導と評価の一体化を図ります。

**ポイント！**

1 評価規準は、各校の状況に応じて各校での学習計画に即して作成する。

→指導計画をしっかり立てること

2 一連の学習過程で育成される資質能力の関連に配慮する。

→どの場面でどの資質能力を育成し、評価するのか

⇒指導と評価の一体化

(4) 事例概要

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』P. 42～75 に事例が 4 例掲載されています。

題材名	キーワード 主に紹介されている評価の観点
「おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁」(第 5 学年)	指導と評価の計画から評価の総括まで「知識・技能」の評価
「冬のあったかエコライフを工夫しよう」(第 5 学年)	「思考・判断・表現」の評価
「わが家の仕事大作戦 part 3～家族で協力、わが家のお正月を気持ちよくむかえよう～」(第 5 学年)	A(4)に係る「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「地域の人に感謝の気持ちを伝えよう」(第 6 学年)	複数題材にわたる「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【参考資料】

《文部科学省 国立教育政策研究所》

・小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編

・『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』

《神奈川県教育委員会》

・「教育課程編成の指針」

・「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」